

民主島根

2020年
1.19
第1352号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

県政への不信、不満強まっている 少人数学級編制の維持・拡充を 党地方議員が副知事、教育長に申し入れ



藤原副知事に「少人数学級編制縮小案」の撤回を申し入れる尾村県議と党の地方議員ら（県庁）

日本共産党県議団と市町議員（12人）は8日、県が「放課後児童クラブと子ども医療費助成の支援拡充のため」として、少人数学級編制の縮小案を示したことに對し、県政への不信や不満の声が強まっているとし、現行の少人数学級編制を維持・拡充するよう県と県教育委員会に申し入れました。



尾村利成、大国陽介の両県議らは、放課後児童クラブと子どもの医療費助成の「福祉」と少人数学級の「教育」を一つのパッケージとして整理する手法は「福祉を充実するから教育の削減を認めよ」という二者択一を迫るものであり、県民要求に對立と分断を持ち込むものだ」と批判。教育現場から寄せられた「現場の混乱は必至。教員になる



県に申し入れる岡崎氏（正面中央）と山崎氏（その左）ら

「原発ゼロをめざす島根の会」は12月26日、県に對して中国電力島根原発2号機再稼働、3号機の新規稼働は認めず、県民の生命・財産を守る

の中止などで捻出すべきと主張しました。藤原孝行副知事、新田英夫教育長は、現行の少人数学級編制について、教職員からの評価は高いとの認識を示しながらも、人口減少対策の財源が必要だとし、見直しに理解が得られるようにすると述べるにとどまりました。

県民の生命・財産守れ 原発ゼロの会が県へ要請

よう申し入れました。岡崎由美子（弁護士）、山崎泰子の両共同代表らが県庁を訪れ、日本共産党の尾村利成、大国陽介の両県議、吉儀敬子、田中肇の両市議が参加しました。岡崎氏らは「原発30キロ圏内の自治体が求めている立地自治体並みの安全協定（立ち入り調査権、原子炉停止要求権含む）の締結に向け、県のイニシアチブの發揮

まともな政治取り戻そう 尾村、大国県議ら地方議員先頭に 新春宣伝

日本共産党の地方議員らは元日から4日にかけて新春宣伝し、安倍政権の「桜を見る会」疑惑や、カジノ担当副大臣だった自民党の現職衆院議員の逮捕にふれ、「野党が結束して政治の私物化を徹底追及し、まともな政治を取り戻すために力を尽くす」と決意を述べました。

4日の出雲市では大国陽介県議、後藤由美市議、民青同盟の吉井安見県委員長が宣伝しました。

大平前衆院議員、中林元衆院議員 党女性後援会 迎え新春の集い

の私物化について「日本の民主主義をなくしてしまう異常な事態だ」と批判。「市民と野党の共闘の道にこそ安倍政治を変えたい大きな希望がある」と強調し、「総選挙に向けて日本共産党を強く大きくして野党連合政権元年にしていこう」と呼びかけました。

▽福島第1原発事故の原因、原発事故による健康・生活への影響、避難方法などを県独自で検証する委員会の速やかな設置を要請。県民の疑問や意見に県がどう対応しているのか見えないと指摘し、「パブリックコメントなどで県民の意見をしっかりと集約し、結果も県民に示すべき」などと求めました。県防災部の奈良省吾次長は、避難対策などの県独自の検証について県原子力安全顧問の増員を検討する考えを示しました。

鼓動

現金を使わずに買い物ができる「キャッシュレス決済」。政府は昨年10月の消費税増税に併せ、最大5%のポイント還元策を今年6月まで繰り出し、キャッシュレス化の旗を振っているが、普及にはまだまだ課題があるように思う▼キャッシュレス決済は現在、大きく分けて、クレジットカードなどの「カード決済」、スイカやワオン、ナナコなどの「電子マネー決済」、ペイペイ、LINEペイなどのQRコードやバーコードを使う「コード決済」の3種類▼このうち、数年前に登場した最新の支払い手法がコード決済。利用する際はスマホにアプリをダウンロードした上で、銀行口座やクレジットカード情報を登録し、事前に入金しておく必要があるが、多くのアプリは利用者間でお金をやりとりできる機能を搭載している▼2017年に博報堂生活総合研究所が行ったアンケート調査によれば、キャッシュレス社会について「反対」（51.4%）が「賛成」（48.6%）をやや上回っている。私自身は、手続きの煩わしさや、現金のほうが安心のような気がし、特に不便さや不満は感じていない。ただ、日本でキャッシュレス化が進まない理由の一つに、店舗が決済業者に支払う手数料や端末導入費の問題などが指摘されている。手数料は決済手段などによって異なるが、概ね価格の数%とされ、導入に消極的な店舗も多いといわれている▼正月、姪2人へのお年玉は「現金」で渡したが、キャッシュレス化がさらに進んだ将来、スマホでお年玉を送金してほしいと言われるような日は来るのだろうか。（遠）